

脚本タイトル 「ひだまりの Last Christmas」

作者 渚太陽

上演年度

2023年度 宇部地区高等学校演劇発表会 最優秀賞

2023年度 山口県高等学校演劇発表会 優秀賞第二席

登場人物の数 七人（男子5人、女子1人、2人）

作品紹介 老人ホームで青春時代に好きだった洋子に再会し、施設の

クリスマス会でかつて上演する予定だった「ラストクリスマス

マス（仮）」を上演する

上演許可を得るための連絡先

宇部鴻城高等学校

キャスト

天野(旧姓) 皆戸(洋子) みなと

ゆうき ただし

優木 正(ただし) 老人2役

ひでやま きりひと

秀山 桐人(しゅうちゃん・兄貴) 老人1役

しろいし まさる

城石 勝(ジョー)

こうがみ みつまさ

鴻上 光正(みつちゃん)

もりた やすし

最田 靖(ヤス) ひだまり園館長) 男役

宇部(ひだまり園 職員)

#老人ホーム「ひだまり園」

職員に車いすを押されながら廊下を移動している老婆

宇部 天野さん、今日はいいい天気ですね。

天野 ……

宇部 少し窓開けましょうか？

天野 ……

特に返事もない天野

窓を開ける

近くのスーパールのクリスマスセールの「Let it Snow」のオルゴール曲が聞こえる

宇部 もうすぐクリスマスですよ、天野さん。

天野 ……

宇部 天野さん、入所してきたの初めてのクリスマスですね。

天野 ……

宇部 クリスマスっていいですよね。

天野 (遠くを見つめている)

返事のない天野に対して困る宇部

宇部 あ、そうそう、これこれ。

紙袋からクリスマスツリーを取り出す

宇部 見て下さい、可愛いでしょ、クリスマスツリーです。

クリスマスツリーを手渡され、眺める天野

天野 (じっと眺めている)

宇部 みんなで作ったんですよ。どうですか？

天野 ……

返事のない天野に対して溜息をつく宇部

宇部 やっぱり風は冷たいですね。じゃあ、食堂でお茶をもらって部屋に行きましょう。

窓を閉めて車いすを押す、宇部

食堂でクリスマス会の準備をしている最田

城石は、鼻歌を歌いながらエアロバイクを漕いでいる

鴻上は、何やらタブレットをいじっている

秀山と優木は、グラビアを眺めているが、最田に気づいて近づく

優木 ヤス、例の件はどうなった？

最田 だから、無理だって言ってるじゃないですか。

秀山 何でだよ。ちよっと出てもらうだけだろ。

優木 そうそう。

最田 知ってると思いますけど、天野さんは認知症の方も進行してて、

そんなお芝居ができるような状態じゃないんですよ？

秀山 分かってるって。だから、その所は工夫してなあ。

優木 ちよっとだけでも、舞台に出てもらいたいんだよ。

最田 でも、何かあったら園の責任になっちゃうんですよ。

優木 それは、そうだけど…

最田 それに、天野さんはご家族もないし、ここに入所されたのも遠い親戚の方からの依頼なので、そういう判断は園の責任になっちゃうんですよ。

天野を舞台に出す出さないの議論を始める最田、優木、秀山

車いすの天野、宇部に押されて食堂にやってくる

宇部、エアロバイクを漕いでいる城石に声をかける

宇部 あ、城石さん。精が出ますね。

城石 おお、宇部ちゃん。最近、ちよつとお腹がな。

宇部 甘いものは、控えて下さいよ。

城石 分かってるよ。

宇部に気づく最田

最田 あ、宇部君。

宇部 はい。

最田 ちよつと、これ貼るのを変わってくれる？

宇部 あ、はい。じゃあ、天野さん。ちよつと離れますね。

城石 宇部ちゃん、やってやろうか？

宇部 本当ですか？ありがとうございます。これから、天野さんをお

部屋に連れて行くので助かります。

城石 いいって、いいって。

宇部 じゃあ、天野さん行きましょう。

宇部、最田から受け取った張り紙を城石に渡す

宇部、天野の車いすを押し去る

城石、ホワイトボードに飾りつけをする

秀山たちの会話の後ろで

「ひ」「だ」「ま」「り」「園」「ク」「リ」「ス」「マ」「ス」「会」のラ
ミネットを「園」「ま」「り」(サイン)「会」として貼り付ける(サ
イン)は手書き

宇部 こんにちは。

秀山 ああ、こんにちは。

優木 ああ、こんにちは。

優木、秀山は「間違いない」という面持ちで見つめ合うなづく

(次のやりとりは、秀山たちの会話の後ろで同時進行)

宇部が戻ってきて、城石の飾りつけを見て落胆する

宇部は「ひだまり園クリスマス会」ときちんと飾りつけをし直す

秀山 ヤス。

最田 はい？

秀山 お前なあ、誰のおかげで、この「ひだまり園」が運営できてる

と思ってるんだ？

最田 どういう意味ですか？

秀山 俺たち高齢者が、なけなしの貯金と年金を納入してるからこそ、

ここは成り立ってるんだらう？

優木 お前が、この「ひだまり園」を親父から継いでやるって聞いた

とき、俺たちも応援したよな？

最田 は？

秀山 だったら、俺たち入所者の要望ぐらい聞いてくれたっていいだ

ろうが。

最田 え？でも兄貴たちの場合は、「俺たちは一緒に老人ホームに入りたいから、必ず部屋をあげるように」って半ば脅迫まがいに入所してきたんじゃないですか。それも、割引しろって。

秀山 何だって？

優木 そうだっけ？

最田 もう、都合の悪い時だけ聞こえないフリをするのはやめて下さいよ。

二人 はい？

最田 と、とにかく、天野さんがクリスマス会で、役をやるのは難しいですよ。

秀山 ヤス。俺たちは、お前が小学生の頃から可愛がってきた。よく一緒にライダーごっこしたよな。

最田 何ですか、それ。

秀山 俺たちにとつて、まあ、弟みたいなもんだよな。

優木 長い付き合いだよなあ。

最田 それは、まあ、その節はありがとうございます。

秀山 その、兄貴分がこうやって頼んでるんだ。ええ？それをお前は無下にダメだっけいうんだな。

最田 いや、だから、天野さんじゃ難しいって言ってるんですよ。

優木 そこをなんとかさあ。

秀山 おい、お前、俺はお前の十個上だぞ？ああ？

最田 兄貴・・・、日本で一番ダサイ台詞を吐いてますよ。

優木 うん、それはダサイ。スゴんで言うからとてもダサイ。それに、だいたい十個上って言ったら、前期高齢者が後期高齢者になっちゃうぞ（変な空気）

秀山 あーゴホン。だからさあ、頼むよ。わかった、このグラビアや

るからさ。

最田 いりませんよ。（投げ捨てる）

秀山 あー、何て事を（声になっていない）

優木 あ、お、お願いだよ。ヤス。

最田 だって、多分、声を発するのもあんまり・・・

秀山 まあ、それは考えてあるんだよ。なあ？

優木 ああ、そうそう。声は録音で流すから。

最田 そうですか。でもなあ・・・

秀山 車いすのままさあ、舞台に出てくるだけでいいんだよ。

優木 せめて、シルエットだけでも。

最田 出てくるだけねえ・・・

秀山 頼む、承諾してくれ。

最田 でも、兄貴も正さんもどうして、入所してきたばかりの天野さんに、そこまでこだわるんですか？

優木 ……

秀山 それはなあ・・・

最田 録音して声を流すぐらいだったら、他の人でもいいじゃないですか。

鴻上、タブレットを持って近づく

鴻上 ヤス

最田 あ、みっちゃん。どうしたんですか？

鴻上 E・T、友達。

鴻上、人差し指を突き出すE・Tのポーズ

最田 ええ？何ですか、昭和ネタ古いすね〜はい、E・T〜

最田、人差し指を鴻上とあわせるようにポーズをとる

鴻上、すかさずタブレットの指紋認証ボタンを差し出す

効果音「認証しました」

最田 え？何ですか？

鴻上 秀ちゃん、正。システムに侵入したぞ。

優木 よし。さすが、みつちゃん。

秀山 機械系には昔から強いからなあ、みつちゃんは。

最田 ちよつと、システムって（タブレットを覗きこむ）…あーっ、

これ、入所者情報じゃないですか！

優木 うるさいなあ、ヤスは。

最田 個人情報ですよ、勝手に見ちゃダメですって。

秀山 お前ねえ、俺たちが「入所者情報見せてくれ」って頼んだら、

見せてくれるのか？

最田 そんなの見せられるわけないでしょ。

秀山 だろう？

優木 だから、みっちゃんに頼んで、システムに侵入してもらってる

んだろう、馬鹿だなあヤスは。

最田 そうか、なるほどって…って違う違う。そうじゃなくて…

鴻上 ほら、見てみるよ。やっぱりそうだ。

秀山 ああ。

優木 間違いない。

秀山 何で、気づかないかなあ。

鴻上 入所してきた時からマスクをしてたからなあ。

優木 何となく雰囲気は感じてたけど…

最田 ちよつと、何なんですか？

秀山 覚えてるか、ヤス。

最田 何をですか？

秀山 天野さんの旧姓は、皆戸。

鴻上 彼女は…

優木 洋子ちゃんだ。

最田 え？

暗転

音楽「港のヨココ・ヨコハマ・ヨコスカ」

タイトルムービー（キャストの紹介）

場面転換

#あの秋の公園（回想）

今から五十年前

そわそわしている優木

秀山、最田とライダーごっこをしている

秀山 イーヒッヒー

最田 でたな、シヨツカー！お前の悪事は許さないぞ！

秀山 キキキ！

最田 トウツ！タア！

秀山 キキキ！

優木 遅いなあ、二人とも…

最田 ライダー、げんこつ！ごちん。

秀山 キキキ、ボタン（倒れる）

最田 正義は勝つツス！ニツ！

秀山 ライダー、お前も道連れだ。（おならの音のSE）

最田 く、くさい……ボタン（倒れる）

秀山 ハハハハ

最田 （起き上がりながら）ちよつと、ずるいッスよ。オナラなんて。

秀山 悪い悪い（笑）

優木 ねえ、秀ちゃん、二人とも遅くないか？

秀山 正。そわそわするのは、分かるけどさ。ジョーの方はともかく、

みつちゃんの方は、なかなか難しいミッシェンだからなあ。時間がかかるんじゃないか？

優木 それはそうだけど……

秀山 それに、ジョーは絶対、寄り道してらつて。

優木 まあ、それは、あり得る。

最田 ジョーさんは、絶対そうッス。ウスターソーツス。

秀山 何だよ、ウスターソーツスつて。

最田 へへへ。

秀山 それにそのポーズは、グリコだろ？

優木 ヤス、最近「なんとかッス」つて口調にはまつてるなあ。

最田 体育会系の後輩キャラを極めるには、この口調ッス。

優木 体育会系つて、俺ら演劇部なんだけど……

最田 え、でも演劇部つて体育会系ですよ？筋トレばっかりしてる

し、あと演出の先生がいつも怒鳴つてるし。

秀山 は？

最田 「そこっ！照明遅いんだよ！」「お前みたいな大根役者、辞めち

まえ！」つて。

優木 そういう学校もあるかもだけど……

秀山 ああ……？まあ、体育会系みたいなのところはあるか。

優木 だな、うん。

秀山 よし、じゃあヤス、ちよつと駅前を見て来いよ。

最田 台点承知ッス！

優木 何だよ、承知ッス！つて。

最田、城石を探しに行く

秀山 で、台本は出来たのか？

優木 ああ、まあね。これ、はい。

優木、カバンから台本を取り出し、秀山に渡す

秀山 どれどれ……「ラストクリスマス(仮)」？何だよ、カッコ仮つて？

優木 ああ、老人ホームで「最後のクリスマス」じゃあ何か縁起悪い

感じだろ？だから、カッコ仮。

秀山 なるほど。ヤスの親父さんとこの老人ホーム「ひだまり園」での慰労会用だから、気をつかうよな。老人向けつて、難しそう。

優木 うん、とりあえず入居している老人に、少しでも前を向いても
らえるような内容には、したつもり。

秀山 そうか。

優木 あとは、洋子ちゃん次第……

秀山 しかし、お前の洋子ちゃんに対する思いも、なかなかだな。

優木 え？

秀山 だって、ほとんど話したことのない、彼女に「俺たちの芝居に
出て！」つて勇氣あるなあ。

優木 まあ、うちは男子しかいないし、それに……

秀山 それに？

優木 それに、好きになったこの気持ちはだれにも止められない。

秀山 おお、おおうねえ。♪「誰か、Romantic 止めて〜」

優木 茶化すなよ、こっちは真剣なんだ。

秀山 悪い、悪い。一目ぼれって、いうやつね。

優木 なあ、覚えてるか？

秀山 ん？

優木 ほら、担任の先生が「転校生を紹介する」って言って、彼女が教室に入って来た時のこと。

秀山 ああ、覚えてる。

優木 ちようどさ、教室を吹き抜ける風で洋子ちゃんの長い髪の毛が、さらさらってなびいてさ、キューティクルって言うのかな。こうね、キラキラって光ってね、もうすべてがスローモーションのように感じてさ。

秀山 まあ、確かに自己紹介で「横浜から転校してきた皆戸です」って言った時の、教室の男子の色めきたった雰囲気は異常だったな。

優木 うん。

秀山 「港のヨーコだ！」って叫んでた奴もいたな。

優木 ほとんどの男子が「ぼけー」って見とれちゃってて。

秀山 お前もな。

優木 うん。

秀山 席を決めるのも、かなりもめたからなあ。

優木 そうそう。あの時、勇気をもって隣の席を立候補してたらなあ。

秀山 まあ、結局抽選で三好の隣になったけどね。

優木 羨ましすぎるよ。

秀山 それから毎日、声もかけずに、ただ、教室の中でずっと見てるだけの片思いってやつか。

優木 教室だけじゃないよ。電車も一緒だからずっと見てた。へへへ。

秀山 お前、よく通報されなかったな。

優木 でね、洋子ちゃん、いつも友達が乗って来るまでの一人の時は、

ウオークマンしてるんだけど、その横顔が素敵なんだよ。

秀山 ウオークマン？ああ、あのCMで猿が聞いているやつね。

優木 洋子ちゃんは、猿じゃないよ。しいて言うならモンチッチだよ。

秀山 どっちにしても猿じゃないか。

優木 うるさいなあ。とにかく、目をつぶって、こう曲か何か聞いている姿は、本当に女神のようだよ♡

秀山 はいはい。

優木 なのに、どうしてまた転校しちゃうんだろう…

秀山 そうだよな。

優木 だから、転校前に一緒に僕たちのお芝居に出演してもらって、告白する！

秀山 おお！じゃあ、練習だな。

優木 え？いいのか？

秀山 当たり前だろ。

優木 ありがとう。

妄想シーン1

秀山は、皆戸役

秀山 あ、ごめん、待った？「アイアムソーリーヒゲソーリー」「許してちょんまげ」（変なポーズ）

優木 ちよっと、洋子ちゃんは、そんなこと言わないし、そんなポーズもしません。ちゃんとやってよ。

秀山 悪い、悪い。ついね。

優木 頼むよ。

秀山 あの、優木くん。話って、なあに？

優木 あの、その…

秀山 私、モジモジてる人は嫌いよ。はっきりしてね。

優木 モジモジはしません、ハイ。

秀山 で、話って？

優木 じゃあ、言うね。

秀山 ええ。

優木 「月がきれいですね」

秀山 ？？？

優木 あの、「月がきれいですね」

秀山 うん、きれいなね。それがどうしたの？

優木 だから、「月がきれいですね」

秀山 もう、はっきりしない人は嫌いよ。

優木 お前、夏目漱石知らないの？

秀山 馬鹿にするなよ。千円札だろ。

優木 いや、そうじゃなくて「アイラブユー」の翻訳を「月がきれいですね」って訳した話。

秀山 何だよそれ。全然意味わかんねーよ。

優木 洋子ちゃんなら分かるだろ。彼女、頭もいいし。この間のテストもさ……

秀山 にしても、「好きだ」って伝えるのにそんな回りくどい言い方しなくてもさ。

優木 まあ、確かにね。

秀山 それに洋子ちゃん、横浜っ子だからさ、周りの男たちっていうのは、やっぱり、アレじゃないか。

優木 ？

秀山 こういう感じで（剃りこみのポーズ）

優木 こういう感じで（ポーズを真似る）

秀山 こういう感じの（リーゼントのポーズ）

優木 こういう感じの（ポーズを真似る）

秀山 イカした奴！

優木 なるほど。

秀山 男ならバシツとき。

優木 そうだな、わかった。

秀山 ねえ、何なのよ？こんなところに呼び出して。

優木 洋子、俺のスケになんねーか？

秀山 は？

優木 俺のママチャリの後ろに乗って、一緒に風にならねーか？

秀山 優木くん……ってなるか！

優木 だよなー。

秀山 ママチャリだぞ、アホだろ。全然ダメ。

優木 僕のキャラじゃないし、大体、洋子ちゃんがそんな不良キャラでもないもんな。

秀山 確かに、イメージ作りすぎ。

優木 まあ、ここはシンプルに。

秀山 そうだな。じゃあ、いくぞ。

妄想シーン2

秀山 ごめん、遅くなっちゃって。待ったよね？

優木 いや、全然。洋子ちゃん、転校して来たばかりなのに、また、

転校して行っちゃうんだね。

秀山 うん。

優木 そう、それで実は、お願いがあるんだけど。

秀山 何？

優木 転校する前に、僕たちと一緒にお芝居に出てくれない？

秀山 お芝居？どうして私に？

優木 そ、それは…

秀山 女の子なら、他にもいるでしょ？

優木 だって、僕はあなたのことが…

秀山 あなたのことが？

優木 す、す…

秀山 す、す？

優木 無理——！

秀山 何だよ、言わねーのかよ。

優木 これは、練習しても無理だ。練習だけで心臓がバクバクしてる。

秀山 だらしねーな。

優木 だって…

秀山 正らしいけど。

優木 だから、直接言うのは恥ずかしいから、僕の気持ちと「芝居に出てください。台詞は録音で構いません」ってことは、手紙に書いた。

秀山 まあ、妄想なら言えそうだけど、正はそっちの方が似合ってるかな。手紙を書いただけでも一歩前進だ。

優木 そして、ここに来てくれたら、

秀山 来てくれたら？

優木 ぼくの気持ちを、

秀山 ぼくの気持ちを？

優木 書いたこっちの手紙を、渡す。

秀山 やっぱり、言わねーのかよ。二通書いてるし。

優木 言えないよ。恥ずかしくて…でも、ちゃんと自分で手渡すんだ。

秀山 それぐらいはね。

優木 それが、ギリ！

秀山 まあ、正にしては上出来か。

優木 うん、頑張る。

秀山 そのための、恋のピンポンダッシュ！

優木 その通り！

秀山 盛り上がってきたなあ。

優木 へへへ、ところでみっちゃん、うまくいったかな。

最田、城石を連れてくる

城石、ラーメンを食べながら

最田 兄貴ー、ジョーさんいたッスよ。やっぱり、駅前のラーメンの

自販機にいたッス。

秀山 だろうと思った。

城石 お待たせ、生徒会室に忍び込むのに手こずっちゃって（ずるずるとラーメンを食べながら）

秀山 嘘つけ。ラーメン食って遅くなったんだろ。

城石 違うよ。本当にさあ…

最田 それ、何杯目ッスか？

城石 三杯目。あっしまった。

最田 やっぱり。

秀山 ジョー、食い過ぎだよ。

城石 だって、腹減ってたんだよ。

最田 それにしても、三杯って。晩ご飯も食べるんすよね？

城石 ま、まあね。

秀山 食いしん坊だなあ、ジョーは。

優木 そんなことより衣装はあったのか？

城石 あ、あああったよ。これ。

城石、紙袋を渡す

中からサンタクロースの衣装

優木 おお、結構いいね。

最田 サンタクローススね。

城石 何だよ「スッスね」って。ハハハ。

秀山 これを、正が来て「人生に絶望した老人」を演じる。

優木 そうだね。

秀山 そして、お前の好きな洋子ちゃんに妻役になってもらい、お前の名前を呼ぶところで、エンディングみたいな感じだな。

優木 そういう感じだね。ヤバい妄想してたら、鼻血が出そう。

秀山 馬鹿だね〜お前は。

最田 面白そうッス、お好みソース。

城石 それで僕は？何役？

秀山 ああ、お前は、照明でさ…

鴻上、自転車に乗って登場

最田 あ、みっちゃんだ。

秀山 ああ、みっちゃん、お帰り。

鴻上 はい、ただいま。

優木 で、どうだった？

鴻上 ああ、かなりビビったけど、押して来たぞ「ピンポン」

秀山 さすが、みっちゃん！

優木 洋子ちゃんはいた？

鴻上 部屋の電気はついてた。

秀山 おお！

優木 て、手紙は？

鴻上 ああ、郵便受けがいっぱいだったから、玄関のノブにカセットテープと一緒に袋に入れて掛けてきた。

優木 ありがとう。

秀山 まずは、第一関門突破だな。

優木 うん。

鴻上 秀ちゃん、正。あんな…

優木 ん？

城石 ねえねえ、照明係ってなんだよ。

秀山 あ、そうだった。なあ、みっちゃん。例の照明電源、上手くいきそうか？

鴻上 あ、ああ、任してよ。そこは、工業科の腕の見せどころ。

城石 電源って？

秀山 ヤスんとこの「ひだまり園」の園庭は、電源が取りづらいらしいんだよ。なあ？

最田 そうなんスよ、それに、この前の台風で、外灯の電源が壊れたんッスよ。

城石 じゃあ、照明どうするの？

優木 昼間だから、雨が降らないかぎりは大丈夫なんだけど…

城石 なんだけどって、じゃあ、照明係って何するんだよ。

優木 それは…ああ、これこれ。はい、台本。

優木、台本を城石と鴻上に手渡す

秀山 ジョー、「老人2が袋の中を見つめる所」、えーと13ページ。

城石 あ、ああ13ページね。

秀山 そのところで、後ろからサスが、こう、パーッと当たるって
いうね、演出を考えてるんだ。

城石 ふーん。

優木 老人2が、希望を持つシーンなんだよ。

鴻上 でさあ、電源がないとスポットライトつかないだろ？

城石 じゃあ、照明係の俺は、何をするんだよ。電源がないなら発電
でもしろって言うのかよ？

鴻上 そう、ビンゴ！（同時に）

優木 そう、ビンゴ！（同時に）

秀山 そう、ビンゴ！（同時に）

鴻上 いやー、流石だね。

秀山 分かってるな、ジョーは。

優木 鋭いね。

城石 え？待って待って、発電って僕が？

秀山 そう、発電。

最田 発電？

優木 ジョーが発電してライトをつける照明係。

城石 どうやって？

最田 ？

鴻上 この自転車に、ダイナモ取り付けて発電機につなげるからさ、
お前が、一生懸命漕いでくれるとライトがつくっていうね、仕組
みです。

城石 えっ！それで照明係？！

最田 自転車漕いでライト付けるの？

秀山 そう。一生懸命自転車を漕いでよ。そしたら、こうさ、ライト
がパーって…

城石 ええ、やだよ。

秀山 何でー？漕いでよ、自転車。

鴻上 ジョーしかないよ。この役は。

最田 ジョー、やるツスよ。

城石 えー、みっちゃんを作ったんだから、みっちゃんがやってよ。

優木 みっちゃんは、音響係だからさ。

鴻上 それに、お前は、音響の操作わかんないだろ？

城石 それはそうだけど…だって、疲れるの嫌だよ。

優木 頼むよ。ジョー、「ありがとうラーメン」の無料券10枚あげるか
らさ。

城石 えっ、本当？分かった俺やる！

鴻上 早っ！（同時に）

秀山 早っ！（同時に）

最田 さすが、食いしん坊。

城石 トップینگ券もつけてね。

優木 OK、OK、つけてあげるから、頼んだよ。

城石 よーし、漕ぎまくるぞー

秀山 ハハハハ、現金な奴。

鴻上 漕ぎ過ぎて壊すなよ。ハハハ

城石 壊さないよ。

みんな ハハハハ

鴻上 そういえば、みんなにジュース買って来た。

秀山 お、気が利くね。

鴻上 ヤス、みんなに配ってよ。

最田 ハイっす。

ジュースを配る最田

鴻上 なあ。

優木 ん？

秀山 何だ？

鴻上 洋子ちゃんは、なんで、転校してきたと思う？

優木 お父さんの仕事の関係って、先生言っただけだったわけ？

秀山 どうしたんだよ、みっちゃん。

鴻上 いや、それがさ、どうもお父さんはいないんじゃないかなって思ってた。

秀山 どうして？

鴻上 さっき、家まで行っただろ？何だか、男の人がいるような感じ

じゃなかったんだよね。

優木 え？

鴻上 それにこの前さ、ジョーと一緒に見ちゃったんだけど…ジョーちよつと。

ジョーを手招きする鴻上

城石と最田近づく

城石 何なに？

秀山 見たって、何をだよ。

鴻上 ほら、ジョー。この前の生徒名簿のこと。

優木 生徒名簿？

城石 ああ、保健室のね。

秀山 保健室って、忍び込んだのか？二人で？

最田 忍び込む！スパイスね。

城石 うん。三好に頼まれて。

優木 三好に？

秀山 何をだよ。

城石 三好が「とこまつプリン」をやるから、皆戸さんの身体測定

のデータを盗み見してくれて。

秀山 データって？

優木 まさか…

城石 身長や体重やバストとか。

秀山 馬鹿だね、お前たち。

最田 バスト？ねえねえ、バストって何なに？

城石 バストって言うのはね…（最田に耳打ち）

最田 お、おっぱい（笑）

優木 うおー、何て卑劣な行為を。許さん、許さんぞ三好のやつ…

最田 おっぱい、おっぱい。兄貴、ジョーさん、いやらしいツスよ。

秀山 ヤス、お前うるさい。ちよつと、あっち行つてろ。

最田 ええ、何ですか？

秀山 いいから、ちよつと大人の会話なんだよ。

最田 兄貴も好きツスね。

秀山 ほら、あっち行けよ。

最田 ハイっす。（洪々、その場から離れる）

優木 てか、みっちゃんも見たんだよ。

鴻上 ジョーが手伝って言うからさ。まあ、俺も確かめたこと

があつたから。

優木 確かめたことって…、みっちゃんも洋子ちゃんの、バ、バス

トサイズが気になって…

鴻上 違うよ。

優木 嘘だー。

鴻上 本当だよ。

城石 うん、知ってるよ。

優木 教えるよ。

城石 いいよ、あのね……（優木に耳打ちしようとする）

秀山 そんなことより、みっちゃんは、何が確かめたかったんだ？

鴻上 洋子ちゃんの家族欄。

優木 家族欄？

鴻上 お父さんの勤め先がウチの親父と一緒にだったんだ。

秀山 それで？

鴻上 うん。それで、親父に、「親父の会社に『皆戸』って人転勤して

きた？」って聞いたんだ。

秀山 そしたら？

鴻上 そしたら、知らないって言うんだ。それに、「最近はず転勤の辞令

なかったけどな」って。

秀山 え？

優木 大きな会社だから、分かんないんじゃない？単身赴任かもしれないし。

鴻上 そうかもしれないけど……

城石 ウチの母ちゃんは、「夜逃げ」してきたんじゃないかって、近所

のおばちゃんたちと話してた。

優木 夜逃げ？まさか……

秀山 それは、ないんじゃないか？

鴻上 俺もそう思うけど、さっき郵便受けがいったって言ったって言う

たろう？

秀山 ああ。

鴻上 ローンや消費者金融のチラシや封筒みたいなのがいっぱいだった

んだ。だからもしかして……

優木 考えすぎだよ、みっちゃん。消費者金融のチラシと違って、ウ

チの家にもたくさん来るし。

秀山 そうだよ。それだけで、決められないだろ。

鴻上 そうだけど、今度も急に転校するし。何だかおかしいよ。

秀山 まあ、確かに……

城石 それと、女子が言ってたけど、洋子ちゃん、もしかしたら妊娠

してるかもって。

優木 え？

城石 体育の授業も見学が多いし……

秀山 妊娠？

城石 だから、転校するんだって。

優木 妊娠って、何でそんなこと言うんだよ！

城石 僕じゃないよ、クラスの女子が噂してたんだよ。

秀山 あいつらは、洋子ちゃんがモテてるのを、妬んでるだけだよ。

鴻上 そうかもしれないけど、いくらなんでもちよっと転校するのが12

早くないか？

秀山 まあな。

優木 仮に、「妊娠」だとしても、それなら「転校」じゃなくて「退学」

なんじゃないのか？いい加減なこと言うなよ！

城石 だから、僕が言ったんじゃないって。

優木 お前らが、洋子ちゃんの何を知ってるって言うんだよ。女子の

連中も！神様でもあるまいし、どんな事情があつて、転校して、

また転校していくかなんて、分かるわけないだろ。分かるわけが

ないんだ！

秀山 洋子ちゃんのことから分らないのは、お前も同じだろ、正。

優木 ぐっ……

城石 そうだよ、落ち着けよ、正。

秀山 とにかく、洋子ちゃんが来れば分かるだろ。

鴻上 まあ、そうだな。

城石 聞いてみようよ。なあ、正。

優木 ……

城石 告白、するんだろう？

優木 ……

秀山 来るかな？

鴻上 どうだろうな…

優木 洋子ちゃん…

暗転

音楽 玉置浩二「メロデー」

シルエット

天野 クリスマスツリーを持って、一人車いすで移動している

天野、クリスマスツリーを見つめている

宇部、天野を探している

天野を見つけた宇部、ほっとして近づく

宇部、天野に何か言うが返事がないので、車いすを押し去る

#ひだまり園(回想明け)

鴻上 結局、俺たちは、ずいぶん待っていたけど、洋子ちゃんは、来

なかった。

優木 そして、あの時の「ひだまり園クリスマス会」は、雨が降って、

中止になったんだ。

最田 そうでしたね。

秀山 あれから俺たちは、洋子ちゃんのことを、そんなに思い出すこ
とはなかった。けど、正は違った。こいつは、俺たちには言わな

かったけどずっと覚えてたんだ。

……

秀山 なぜなら、カセットテープは正のもとに数日後、届いたから。

最田 え？そうだったんですね。

優木 手紙も何もなく、彼女の台詞の音が吹き込まれていたカセット

だけが、届いた。そして、何度も何度も洋子ちゃんの声を聴いた

よ。テープが擦り切れるまで。でも、そのカセットを使うことも

なく、ただ時間だけが過ぎていった。

最田 正さん…

鴻上 けど、また偶然にも、俺たちは、「ひだまり園」で洋子ちゃんと
再会した。

秀山 洋子ちゃんの噂が、本当かどうかはわからない。ただ、今も身

寄りがなく、この「ひだまり園」に来たのは、何があったか分か

らないけど、きっと俺たちの想像も及ばない苦労があったんじゃないか。

ないか。

最田 兄貴…

優木 だから、もう一度あの時できなかった芝居をやりたいんだよ。

秀山 正のカミさんも亡くなって、もうずいぶん経つ。今更だけど、

正にさあ、告白させてやろうぜ。

最田 こ、告白ですか？

鴻上 洋子ちゃん認知症があつて、何も覚えてないかもしれないけど。

秀山 何かのきっかけには、なるんじゃないかな？

鴻上 いいだろ、老人が告白したつて。

最田 そりゃあ、まあ…

秀山 頼む。

鴻上 頼む。
優木 ヤス、頼むよ。

最田 …もうわかりましたよ。そのかわり、やるなら全員、本気で演りますよ。

優木 ああ。

最田 取り戻すツスよ、青春を！

鴻上 よっしゃーっ！

優木 ヤス…ありがとう

秀山 おい、ジョー。ちよつと、こっちに来いよ。

城石 何だよ、みんな揃って、何の相談だよ。

秀山 正の告白、手伝うぞ。

城石 こ、告白？

秀山 ああ。

城石 誰に？

みんな 洋子ちゃんだよ！

音楽 C-C-B「Romanticが止まらない」

暗転

クリスマス会の準備をしている、宇部、鴻上

鴻上、ライトを仕込む

宇部、ホワイトボードを更にクリスマス仕様にして舞台後方に設置

する。クリスマスツリーノ電源も入れる

蝶ネクタイを付けた城石登場

#クリスマス会での50年ぶりの上演

城石 さあ、さあみなさま、お待たせをいたしました。本日の「ひだ

まり園クリスマス会」。トリを務めるのは、かつて同じ演劇部に所

属していた優木さん、秀山さん、と通称「舎弟のヤス」こと当園

長の最田さんのお芝居。

最田 (舞台袖から) おい、ジョーさん。余計なこと言わないでくださいよ。

お客さんの笑いや拍手のSE

城石 ハハハ、はいはい。そろそろ準備ができましたかね。音響を務

めますのは、鴻上さんです。拍手。私は、照明を担当します。あ

あ、温かい拍手ありがとうございます。それでは、「ラストクリ

マス(仮)」をお楽しみください。

タイトルムービー(劇中の役名でキャスト紹介)

音楽 ワムの「ラストクリスマス」

#劇中劇

クリスマスの夜、華やいだ街並みを行きかうカップルや家族連れ

その街はずれの公園の映像

男がウロウロと誰かを探している様子

男 もうーっ、本当、いつもこうなんツスから。

男は、慌てながら街の方に消えて行った

上手から老人1が登場

老人1 まったく、しつこいなあ。

老人1、公園のベンチに座る

城石、袖から顔を出して鴻上に聞く

城石 あれ、秀ちゃんの役って若い男じゃなかったっけ？

鴻上 そりゃあ、50年前のままじゃ、分かりづらいだろうからって、

正がちよつと書きかえたんだ。

城石 へえ、やるねえ。

鴻上 ほらほら、照明頼むぞ。

城石 OK。

城石、鴻上去る

老人1 どうしたもんかねえ………(頭を抱える)

サンタの格好をした老人2が、現れる

老人2 あの………

老人1 (老人2に気づいて) えっ？

老人2 ここ、いいですか？

老人1 ……もしかして、ニコラウス？

老人2 え、はい？

老人1 いや、そんなはずはないよな。

老人2 あの、座っても…

老人1 ああ、ええ、どうぞどうぞ。

老人2 では、失礼します。

老人1、ベンチに座る

老人2、老人1を見つめる

老人2 ……あの、何か？

老人1 いや、あのサンタさんですよね。

老人2 はい、ですね。

老人1 まさか、私を探しに？

老人2 ？

老人1 違いますよね？

老人2 どうしてそう思うんです？

老人1 ああ、いえ、ちよつと、知り合いのサンタに似てましたので。

老人2 そうですか、私は、ボランティアで毎年近所の子供たちにおも

ちやを配っているんです。その方もどこかでボランティアをさ
れているのですか？

老人1 ああ、ええ、まあ………ボランティアですね。

老人2 そうですか、それはそれは。

老人1 すいません、変なこと言つて。私、少々過敏になっていまして。

老人2 ……誰かに探されてるんですか？

老人1 ああ、ええまあ…

老人2 追われている？

老人1 あ、そんなじゃないんですがね。

老人2 年寄りの夜の散歩は、徘徊に間違われますか？

老人1 ははは、まあ、そんなところです。

老人2 そういえば、さつき、頭を抱えていましたね。

老人1 ははは、見ましたか。

老人2 何か、お悩みですか？

老人1 ええ、まあ悩みつていうか…

老人2 いうか？

老人1 悩みですね。ははは。

老人2 どうですか？今日は聖夜です。サンタに悩みでも告白してみま

すか？

老人1 ……

老人2 ちようど今、プレゼントを配り終えたところです。聞かせて下さいよ。お互い老人同士、何かのお役にたつかもかもしれませんよ。

老人1 ……そうですね、じゃあサンタさんに相談しますか。

老人2 どうぞ、どうぞ。

老人1 実は、息子に「後を継がないか」と話したんですが…

老人2 ほう。

老人1 息子は「無理だ」と言って、断られてしまいました。

老人2 あなたは、息子さんに期待されているんですね。

老人1 期待というか、私が元気なうちに、たくさんの人間を管理する

ことに慣れてほしいというか。

老人2 失礼ですが、あなたは、社長さんか何かですか？

老人1 あ、まあそんなところです。

老人2 人の上に立つというの、本当に大変なことですからね。

老人1 (秀山に戻って) ヤス、台詞なんだっけ？

最田 「この世は、舞台」です。

秀山 ああそうだった。

最田 もう、しっかりして下さい。

老人1 『この世は舞台、人はみな役者』お前が、それを演出するんだ」と常日頃から言っていて聞かせてたんですが、どうも自覚がないというか、困ったものです。

老人2 息子さんは、おいくつですか？

老人1 え？ああ、まあやと成人したぐらいです。

老人2 そうでしたか。それだけ若いのに後を継いでほしいと、あなたが思うということは、きっと誠実な息子さんなんでしょうね。だからこそ後を継いで欲しいんでしょうな。そうじゃなきゃ、他の

人に社長業をゆずるでしょうし。

老人1 そうですね。

老人2 そうですよ。私だって、息子がいたら、そうしたかった。

老人1 え？

老人2 私も、こう見えて小さな店を持っていたんですがね。跡取りがないから、長年勤めてくれていたチーフコックに店を譲りました。もちろん、妻も賛成してくれて。まあ小さいながら、そこそこ繁盛していたので、まさかと思っただんですが、そのチーフが店を勝手に売却しましてね、無くなっちゃったんですよ。

老人1 そうでしたか。

老人2 もともと、譲るつもりだったから、恨んではいませんけどね。

店はずっと、あると思っていましたから、何か、もしかしたら裏切られたのかなって…だから、やっぱり息子がいたら、継いでもらいたかったなって思う時もあるんですよ。

老人1 ……

老人2 あなたは、息子さんに、あなたの仕事を継いでいける才能があると思うから継いで欲しいんですよね。私も息子がいたらそう思います。だから、もう一度息子さんに「継いで欲しい」と言うべきです。

老人1 そうですね。

老人2 そうだ、頑張るあなたにサンタからのプレゼントです。はい。

老人2、袋から犬のぬいぐるみを出して、老人1に渡す

老人1 何ですか？これ。

老人2 息子がいない私たちは、ポチという犬を飼ってたんですが、そのポチが亡くなった時にクリスマスプレゼントとして、妻に私が

買ってきたものです。はじめは、「こんな身代わりみたいなもの」
って怒られちゃったんですが、しばらくしてからは、ずっと飾っ
て、可愛がってたんです。

老人1 可愛がってた？

老人2 はい、ここ数年は私のことも分からないぐらいに認知症が進ん
で、もうこのぬいぐるみのことも分からないみたいで…

老人1 そうでしたか。

老人2 近所の子どもに配ろうと思ってたんですが、なかなか手放せな
くてね。

老人1 いいんですか？

老人2 あなたにも必要ないかもしれませんが、奥様にでもどうぞ。き
つと妻もいいて言うと思います。ぜひ、今日の記念に。その人
形を見て、「クリスマスに、もう一度息子さんに仕事を継がせる決
意をした」ってことを思い出してください。

老人1 はい。でも、お気持ちだけで結構です。どうか、そのぬいぐる
みは、大切に奥様の元にお戻しください。

老人2 いや、でもそれじゃあ…

老人1 いいですから、あなたの励ましで十分です。もう一度、息子に
話してみます。

老人2 そうですか…

老人1 はい、ありがとうございます。

老人2、ぬいぐるみを袋に戻す

老人2 すいませんね、何もお役に立てずに…

老人1 いいえ、こうやってあなたと話すことが出来て、もう一度、息
子に話す決心ができました。

老人2 そうですか、そう言ってもらえると私も何かお役にたてよう
で、嬉しいです。

老人1 本当にありがとうございます。

老人2 さっきのシェイクスピアの台詞の続きご存知ですか？

老人1 え？

老人2 「それぞれの舞台上に登場しては消えていく。人はその時々にい
ろんな役を演じるのだ」ですね。私の役目は終わりです。

老人1 どういうことですか？

老人2 私も、こんな年寄りになつて、先も、もう長くはないですしね。

老人1 何を言ってるんですか。まだまだ、お互い長生きしないと。

老人2 話しかけても何の反応もない妻といると、ふと寂しくなつて、
生きる気力を失いそうになります。私も疲れました。

老人1 そんなこと仰らずに。

老人2 ……何だったんですかね、私の人生は。妻の病気が治るよう17

にって始めたサンタのボランティア。子どもたちをみんな笑顔に
したのに、妻を笑顔にさせることはできませんでした。…本当に
一生懸命生きてきたのに、妻も私も…神様にも毎日毎日祈つてき
ましたそれなのに…神様なんていないんですかね…（涙）

老人1 ……

老人2 ああ、すいません。私としたことが、あなたのように前途有望
な息子さんがいらつしやる方に愚痴を言うなんて、馬鹿ですね。

老人1 そんな、馬鹿だなんて。

老人2 いや、馬鹿ですよ。分かってもらいたいなんて…

老人1 ……分かりますよ。

老人2 分かります？

老人1 ええ、よく分かります。

老人2 ……分かるわけないだろう！子供もいて、自分の会社を持ち、

元気な奥さんもいて、どこからみても幸せそうなあなたに、私の……私の気持ちなんか分かるわけがないんだ……うう。

老人2、胸を押さえて苦しむ

老人1 だ、大丈夫ですか。

老人2 ……あ、ああ大丈夫です。少し興奮してしまつて。

老人1 すいません。私の言葉が気に障つたのなら謝ります。

老人2 いや、こちらこそ、すいません。あなたに当るつもりはないんです。本当に……ただ、この気持ちを分かつてもらいたいと思

いながら、あなたが、あつさり分かりますつていうから、ついね。

老人1 でも、……分かるんですよ、私には。どんな気持ちであなたが

が今まで生きてきたかは。こうして目を閉じれば……

老人2 ……

音楽「今日までそして明日から」 吉田拓郎

みんなの小さい時から今までの映像が走馬灯のように流れていく

舞台袖から顔を出す鴻上と城石

鴻上 良い、シーンだなあ。

城石 ちよつと、みっちゃん大変だ。

鴻上 何だよ、そろそろバックライトの準備だぞ。

城石 それが、電源が来てないみたいなんだよ。

鴻上 どうして？

城石 知らないよ。

鴻上 クリスマスツリーはついてるじゃないか。

城石 あれは、電池式！

鴻上 ど、どうするんだよ、今から「袋の中を覗く、奇跡のシーン」なんだぞ。バックライトいるだろ？

城石 わかつてるよ、だから、どうしよう？

鴻上 くそ、……あ、そうだ！

城石 みっちゃん！

鴻上 電源は、何とかする。ジョーは（城石に耳打ちをする）……な、

頼んだぞ！

城石 わ、わかつたよ。

城石と鴻上、袖にはける

舞台上は映像が終わり、芝居が続く

老人2 本当に分かるんですね。

老人1 ええ。それにあなたは、馬鹿なんかじゃない。毎日毎日、祈つ

ていらつしやつたじゃないですか。

老人2 あなたは、一体？

老人1 今日は、聖なる夜です。奇跡を信じて、袋の中をのぞいてみま

せんか？

老人2 え？

老人1 いいから、さあ。

舞台下手にあるエアロバイクにまたがる城石

舞台袖から叫ぶ鴻上

城石 みっちゃん、準備OK

鴻上 ジョー、電源はエアロバイクにつないだ。とにかく漕ぐんだ、

漕ぐんだジョー！

城石 うおおおおおおおおおおおお

老人2、袋の中を覗き込み

ベンチ後方からバックライトが老人2と袋を照らす

中身を見た途端に、ひざから崩れ落ちて袋を抱きしめる

老人2 そ、そんな、ポチが…

老人1 よかったですね。

老人2 まさかこんなことって……

舞台袖から鴻上

鴻上 よしっ！何とか点いた。昔のダイナモが生きていて良かった。

あれ、つてことはサンプラーの電源も落ちてるんじゃないのか？

ま、まずい！

慌てる鴻上

老人1 さあ、お行きなさい。

老人2 これは、夢なのですか？

老人1 ご家族があなたの帰りを待っていますよ。

老人2 え？

宇部、舞台上に天野を連れ出す

「がんばってくださいね」という雰囲気为天野を下手壁前に待機せる

老人1 ほら。

老人2 ああ（天野を見て台詞を待つ）

鴻上 くそ、録音した声が流せない。どうする？

優木、秀山も異変に気付く

慌てる優木、秀山

二人は、客席奥にいる音響に手振りでSEが鳴っていないことを知らせようとしてあたふたしている

最田 みっちゃん、どうしたの？天野さんの声、流れてないよ。

鴻上 分かっているよ。サンプラーの電源も来てなくて…

天野、急に何かを思い出したように、マスクを外して声を発する

天野 正さーーーーーん。

鴻上 え？

天野 帰ろーーーーーう。

最田 き、奇跡だ！

出演している優木、秀山も驚いた表情

鴻上 おーい、洋子ちゃんだ！洋子ちゃんが声を出したぞー！

うなづく、優木、秀山

秀山 ……お、おい正。「台詞台詞」、

優木 ああ、うん（涙）

芝居を続ける秀山と優木

老人2 こんなことって……

老人1 いいんですよ。

老人2 あなたは、もしかして。

老人1 まもなく雪が降ります。さあ、希望を持ってお行きなさい。

老人2 あ、ありがとう。ありがとう（涙）

老人1 いつまでも、お元気で。

舞台袖から

最田 天野さんが、天野さんが……ぐすん（涙）

鴻上 ヤス、泣いてる場合じゃないぞ。エンディングだ。

最田 ハイっす！

優木、呆然としている洋子のマスクをつけてあげ、押しながら去る。

男役（最田）、感極まりながら登場

最田 兄貴く、天野さんよかったですね

秀山 おいおい、まだ芝居中だぞ。

最田 ああ、そうでした（グスン）

芝居を続ける男役（最田）

男 ああ、いたいた。（グスン）こんなところに居たんですね、探し
ましたよ。

老人1 ああ、見つかったか。

男 こんなところで、何をされてたんですか？

老人1 ええ？ああ、人生の演出ってやつだ。ほら、あれ。

老夫婦が去っていく

男 そうでしたか。いいことされたんですね。

老人1 どうしてそう思う？

男 だって、いい顔されてるから。

老人1 そ、そうか？

男 だからって、むやみやたらに願いを叶えていたら、きりがあり

ませんよ。それに、世の中にはバランスってものがありましたね。

老人1 言われなくても、分かっていますよ。

男 まあでも、今日はクリスマスですからね。

老人1 奇跡の一つぐらいいは良いだろう。

男 そうですね。じゃあ、そろそろ戻って、坊ちゃんに引き継ぎの

件を今一度、お話しされてくださいね。

老人1 まあ、そう急かすな。今日は聖夜だ。ゆっくりと下界を眺めて

いこう。

男 分かりましたよ。

老人1 分かればよろしい。……なあ。

男 はい？

老人1 メリークリスマス。

男 メリークリスマス、神様。

音楽ワム「ラストクリスマス」

大きな拍手でエンディングを迎える

暗転

#ひだまりのアプローズ

食堂で話している秀山と鴻上

城石は、エアロバイクを漕いでいる

秀山　でも、びっくりしたなあー、洋子ちゃん。

鴻上　本当、録音を流せないとなるとどうしようと思った所で…

秀山　正さーん。

鴻上　正さーん。

秀山　いやあ、まさにクリスマスの奇跡。

鴻上　そうだよなあ、だって結局、あの後も洋子ちゃんは、ほとんど

しゃべれないみたいだもんな。

秀山　あるんだなあ、あーいうこと。

鴻上　それと、ジョーの発電。あれも良かったねえ。

秀山　ああ、いいタイミングで点いたなあ、ライト。

鴻上　（エアロバイクを漕いでいるジョーに）ジョー、サンキュー。

城石　あん？

鴻上　ライト。

城石　ああ、点いて良かったねえ。ラーメンおごれよ。

鴻上　どうせ、全部食べられないだろ？

城石　半ラーメンだよ。

鴻上　なるほど、そりゃいい。

秀山　ハハハハ

宇部と最田がやってくる

宇部はエアロバイクの城石に近寄って

宇部　城石さん、聞きましたよ。発電したんですって？
城石　ま、まあね。

談笑する宇部と城石

最田は秀山、鴻上のもとへ

最田　ああ、兄貴くよかったですねえ。

秀山　おお、ヤス。お疲れ。

最田　天野さんの声にはびっくりして、泣けました。

秀山　だよな

鴻上　ヤスもいい演技だったぞ。

最田　みっちゃちゃんも、ナイスなりカバリー。流石です。

鴻上　みんなのおかげだよ。

最田　入所者の方々や職員も感動したって言ってました。

秀山　そう言ってもらえると嬉しいなあ、みっちゃちゃん。

鴻上　そうだな。

最田　ところで、正さんは？

秀山　え？（にやつ）

鴻上　え？（にやつ）

秀山　それは、ねえ？（ニヤニヤ）

鴻上　それは、ねえ？（ニヤニヤ）

最田　何なんですか？

鴻上　♪老いらくの恋だなんて言わないで

秀山　♪まさに、運命の大どんでん返し

最田　？

鴻上　恒例の、

秀山　告白

鴻上 タイム！

秀山 タイム！

最田 ええっ！

車いすを押している優木

天野、陽だまりの中、穏やかな表情

優木 覚えていますか？ずっと昔。僕たちが、高校生の頃の話。天野

さんに：、いや、洋子ちゃんに、「この芝居を一緒にやりませんか？」ってお願いしたこと。もう随分前のことだから覚えてないかもしれないですね。ああ、録音のカセットありますがどうぞございました。何度も聞いた声だったけど、今の声も素敵でした。それで、あの時、この「ラストクリスマス」の台本を考えた時、人生で最後のクリスマスっていう意味で書いたんです。施設の老人たちに「最後のクリスマスに奇跡がありますように」ってメッセージを込めて。結局、高校生の時は、洋子ちゃんの出演もなく、舞台そのものも中止になっちゃいましたね。そんな私たちもいつの間にか歳をとってしまいました。けど、「ラストクリスマス」って最後のクリスマスって意味だけじゃないんですよ。英語の「last」には、「この前の」とか「最も近い」って意味があるんです。そう考えたら、私たちにとっては、あの時のクリスマスは、ついこの前でしたね？そう思いませんか？

音楽 フランクシナトラ 「Let it Show」

穏やかにほほ笑む洋子

告白を覗こうと近づくみんなの姿は、いつの間にか50年前の姿になっっている

優木 あ、これあの時、渡そうと思っていたもう一通の手紙です。半世

紀寝かせてました。受け取ってくれませんか？

手紙を渡す

大事そうに受け取る、天野

秀山 おい、正！

優木、振り向くと青春時代のみんなの姿がある

鴻上 俺たち、半世紀待ったんだ。

最田 そうッスよ。

城石 手紙だけとは言わないよな。

みんな 告白！

優木 みんな…

みんな あの時、言えなかった言葉、取り戻そうぜ。

秀山、青春時代に優木がかぶっていた帽子を差し出す

優木 うん。

優木、秀山から帽子を受け取って帽子をかぶり、天野に向き直る

優木 洋子ちゃん。あの日、あの時言えなかったこと、大切なことだ

から、手紙じゃなくて、自分の口で言うね。「洋子ちゃん、僕はあなたのことが…」

音楽 UP

抱き合って喜び合う、秀山、鴻上、最田、城石
仲睦まじく寄り添う老カップルと青春を謳歌しているあの日の若者
の姿がいつまでも浮かぶ

「Let it Snow!」のエンディング部分と同時に幕